

## 新年おめでとうございます～寅年～



令和4年に年が改まり、3学期がスタートしました。今年の干支は寅です。寅は、毛皮の模様から全身が夜空に輝く星と考えられていた存在で、『決断力と才知』の象徴としての意味があり、縁起物としても親しまれています。

一昨年からのコロナ禍で、いつ収束するかも分からない不透明な世の中を打破していくには、獲物に向かって虎のように突き進む力強い決断力と英知にとんだ才知が必要なのかもしれません。新年を迎えたこの時期に、感染症が広がることなく、干支にふさわしい年になることを心から願っています。

## ◆3学期のスタートに当たって！！

今年度のまとめをする学期ですが、やり残したことを取り返す学期がこの後にはありません。授業のまとめと同じです。やり残すことがないように先を見通し、計画的に進めてください。

## ◆挑戦したい「深い学び」 ～寅年のカリキュラム～

今年の干支の寅には「動」の意味もありますと言います。コロナ禍でさまざまな活動が停滞し、教育活動にも支障が生じた状況も踏まえるならば、新型コロナウイルスの感染状況には慎重かつ丁寧に対応しつつ、各学校が「動き出す」年としたいものです。子ども一人一人の安全と安心を確保しつつ、実際の社会で活用できる資質・能力の育成に向けて「主体的・対話的で深い学び」の実現に積極的にチャレンジするタイミングと考えるべきではないでしょうか。今、各学校では教育課程編成の真っ最中だと思いますが、各教科等を越えて横断的に知識を活用し、発揮することができる教育課程の編成となっているかどうか大切な視点となっています。

## 子どもと「つながる習慣」と「ぶつかる習慣」

## 「つながる7つの習慣」

- ・応援する
- ・励ます
- ・傾聴する
- ・信頼する
- ・尊重する
- ・違いを話し合う
- ・受け入れる

## 「ぶつかる7つの習慣」

- ・批判する
- ・責める
- ・文句を言う
- ・脅す
- ・罰する
- ・目先の褒美で行動をコントロールする
- ・がみがみ小言を言う

## 「自分でできる子に育つ

ほめ方 叱り方」より



## 新春インタビュー

須賀川市教育委員会学校教育課長

## ◎今年の抱負をお聞かせください

教育委員会が一つとなって、子どもたちが楽しく充実した学校生活を送ることができるよう、また、教職員の皆様がやりがいをもって、職務遂行にあたるよう全力で支援できるようにしていきたいと思えます。



## ◎須賀川市の先生方に望むこと

コロナ禍の中、厳しい状況での教育活動が予想されますが、まずは健康に留意して、子どもに寄り添える先生方であってほしいと願っています。

## ◎令和3年度で一番印象に残っていること

東京オリンピックでの日本人選手の活躍を目にし、人が頑張る姿に感動しました。中でも水泳の池江選手は、印象に残っておりその活躍に大きな感動を覚えました。



須賀川市の各小中学校区では、地域連携を図った特色ある小中一貫教育の研究が進められています。その中で、昨年11月に、第二中学区小中一貫教育健康教育部会では、学級活動の保健指導で「心の健康のレジリエンス」についての授業を公開し、研修を深めました。その実践内容の一部を紹介します。

◆指導テーマ：「悩みとその解決」～レジリエンスを育てよう～



1年学級担任と養護教諭によるTTの指導でした。

みんなはどんな時に落ち込むのかなあ？



事前指導で、エコグラムを使い自分の性格のタイプ（心のくせ）を調べておきました。

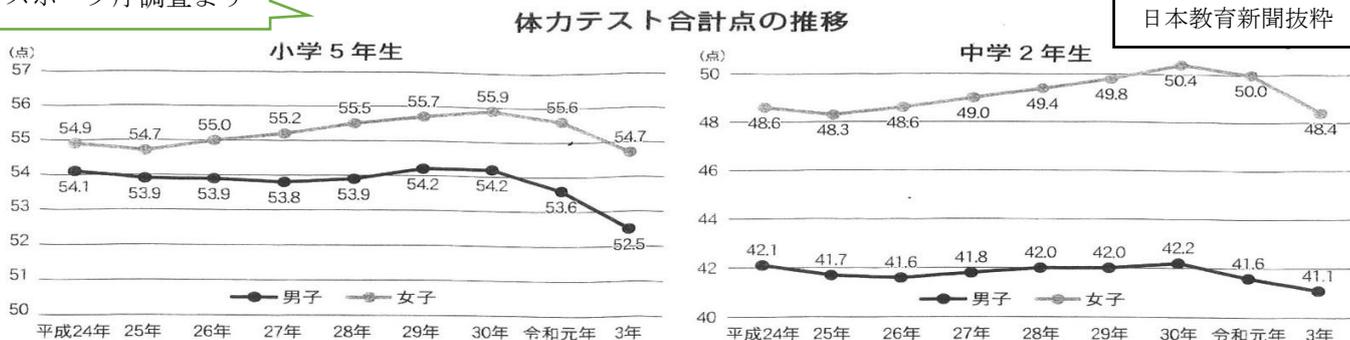
人によって様々な捉え方があることを分かりました。

◎レジリエンスとは・・・

レジリエンス (resilience) とは、「回復力」「弾性 (しなやかさ)」を意味します。私たちは、失敗したり、事故や災害にあったり、親しい人と別れたりするととても落ち込みます。実際には時間が経つにつれ、少しずつ立ち直り、心の傷も癒されていきます。それは、私たちが「レジリエンス」という落ち込みから立ち直る力を持っているからです。しかし、近年変化の激しい現代社会の中で、ストレスや逆境への耐性が弱い人たちが増えてきていると言われてきています。これは大人だけでなく子どもたちにもみられ、様々な場面で不適応な行動が現れてしまいます。失敗して落ち込んでも、悲しくて辛いことがあっても、いつか立ち直れる『困難を乗り越える心の力=レジリエンス』についての指導が全国各地で実施されてきています。

令和3年度 全国体力・運動能力調査結果 **小・中学生の体力低下 肥満率は増加、男子で顕著**

スポーツ庁調査より



日本教育新聞抜粋

スポーツ庁が昨年の12月24日に令和3年度の全国体力・運動能力調査の結果を発表しました。体力調査の合計は令和元年度に比べ、小・中学生の男女ともに低下し、肥満割合が増加していました。同庁担当者は、コロナ禍による運動時間の減少やテレビ・スマートフォンの視聴時間が伸びたことが影響していると分析し、「社会のデジタル化は今後も避けられない。学校と家庭・地域が一体となって運動やスポーツの楽しさを感じてもらえるような働きかけが必要だ」と述べています。(日本教育新聞記載)

福島県教育委員会では、2015年より、「学校における肥満対策ガイドライン」の作成や「ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト」を発足して、県内の児童生徒の肥満解消、体力向上に取り組んでいます。

須賀川市の子どもたちの健康課題も第一に肥満があげられ、体力・運動能力結果も全国と同じような傾向です。須賀川市教育委員会でも、令和元年より須賀川三師会・こども課・健康づくり課と連携しながら対策を進めているところです。各学校においても実態に応じた対策を進めてくださるようお願いいたします。

希望に輝く一年になるようお祈りします。本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

